

HEADLINE

表

1. 収穫の秋 始まります
2. 学校行事の少ない冬休みまでの過ごし方

裏

3. 大学の入学定員、合格者に関する規制について

編集後記

Topic1 収穫の秋 始まります ～もう少し先の話まで～

夏の取り組みは秋以降に差が出る。

夏休み・・・休んだ気がしない生徒の皆さんも多いことかと・・・。第88号でお伝えした通り『夏は自由になる時間は想像以上に少ない』もので、皆さんも実感されたことでしょう。3年生の皆さんに残された時間は約5か月、センター試験までは約4か月。ここまで来たら体力と精神力の勝負です。駆け抜けましょう。

1・2年生の皆さんの中には、この夏、オープンキャンパスや大学巡りをした人も多いようで、目標となる大学を体感できたかと思います。

さて、これから始まる2学期、動きの差はすでに出始めています。自分の弱い部分に勝てず、思うように動くことができなかった人は、今こそ動き出す時期です。目標を高く掲げ、残された高校生活を使い切ってほしいと思います。

こんな人は要注意！

夏休みで生活が乱れた人、特に睡眠時間や時間帯が大幅に変化した人はとても危険です。この文理だよりが校舎で配られる頃には、学校も始まっているので、苦労を実感している人もいるかもしれませんね。

これに限らず皆さん個々反省も多々あると思います。反省ばかりでは前に進みません。気持ちを切り替えて行動に移すことを心がけましょう。

もう少し未来の話。「皆さんが大学を出て社会に出る頃の世の中はどうなっているのか？」と考えたことはありますか？最近の話題では“AI(人工知能)”や、大学に関係する点では東京の大学の定員の規制が厳しくなる(裏面で大きく扱います)など、大きな環境変化が起こりそうな予感がします。そんな世の中の変化のスピードが騒がれる一方で、皆さんの周囲ではそれほど大きな変化はないと思います。これが学生時代です。だからこそ変化に対応できる力を自分のペースで蓄える必要があるのだと思います。自分のペースというものがある程度許されるのは、この時期だけだからです。今できることは、① 考え抜く強い頭脳をつくること ② いやなことでも立ち向かうこと これを勉強を通じて身につけましょう。

「皆さんが大学を出る頃の世の中はどうなっているのか？」は適切ではないかもしれませんが。「皆さんは大学を出る頃、どのような人間に成長しているのでしょうか、どのような人間になりたいと思いますか？」ということがテーマなのでしょうね。

それについて、この秋から始めましょう。よりよい答えを導くためには行動あるのみ、行動がすべてです。

読書の秋、食欲の秋・・・いろいろな秋がありますが、そのすべてが「意志をもった行動」を伴うものです。

Topic2 学校行事の少ない冬休みまでの過ごし方(1・2年生)

4～7月期は新年度のバタバタ、学園祭などの学校行事も多く、ゴールデンウィークなどの大型連休もあり、リズムが一定ではありません。しかし、9～11月は比較的落ち着いてリズムの作りやすい時期と言えます。こんな時こそ“学習習慣を身につける”絶好の機会です。では、どうすればよいか？答えは簡単です。

文理の自習室を使いましょう！

3年生のほとんどの生徒が自習室を使っています。その環境に飛び込んでしまうのはもっとも簡単な方法と言えます。3年生に刺激を受けながら自習室で学習のリズムをつくる、わからないところは即文理の講師に質問する、継続的な学習を組み立てる場として、今後は文理の自習室を積極的に使ってください。

そして、目標は11月の進研模試に向けての学習です。進研模試が簡単か難しいか？という話ではありません。大学受験に向けて、自分に必要な学習プログラムを始める、ということです。特に1年生は未だに学校の予習復習に追われる人も多いのが実態です。ですが、目的意識をもって勉強し始めることは誰でもできるのです。ゆとりのある人ができるのではなく、心がけて取り組み始めてからゆとりが生まれるのです。

今を大切にしましょう。

とても大きなニュースが飛び込んできました。「東京の大学の入学定員、合格者数に対する規制が強化される」というニュースです。

① どういうことか？

大学には入学定員というものがあります。それに対して合格者数と入学者数というものがあります。合格者全員が入学するわけではなく、入学を辞退する人(合格したのに、入学手続きをしない生徒:入学辞退者)も出ます。つまり、

$$【入学者数】=【合格者数】-【入学辞退者数】$$

という式が成り立ちます。この【合格者数】は大学ごとで設定ができるのですが、【入学辞退者数】が大学の見込んでいた人数よりも少なければ、辞退者以外は全員入学させなければならないため、入学者数が定員を大きく上回ることが起こります。これがよくないとして、これまでも文部科学省が大学を指導してきました。

今回は、この【合格者数】が入学定員を大きく上回らないようにする規制を、都内にキャンパスのある大学についてのみ強化するという事です。

② 何が起こると予想されるか？

まず、大学側は補欠合格(または追加合格)を出すこと、人数も多くなるでしょう。補欠合格者は合格者のうち、辞退者が出れば、その数に応じて繰り上がり、合格となる受験生で、繰り上がり合格となるかどうかは大学次第、その年の受験生の動向次第です。これにより大学側は定員と入学者数との差を細かく調整することができ、文部科学省からの厳しい指導は受けずに済みます。

追加合格は合格発表時点では不合格です。補欠合格を出すのは「入学できるかもしれない」ということで受験生をつなぎとめるためです。

受験生からすれば、東京の大学の偏差値レベルがどうなるかが気になります。ここが最も重要なポイントで、皆さんにどのような影響があるのか、これについて考えます。

東京にある上位の私立大は当然のこととして、中堅の私立大も偏差値レベルが上がる(合格しにくくなる)ことは容易に想像できます。つまり、中堅の国公立大を受験する生徒のすべり止めとされる私立大学のレベルが上がるということです。状況がわかりにくいかもしれませんが、例えば東京・神奈川・埼玉・千葉西部など東京の大学に自宅から通学できる地域に住んでいる大学受験生のうち、進学先の大学の条件として「東京にある大学」を挙げる生徒は多数います。予想の範囲でしかありませんが、少なく見積もっても数万人という単位だと思えます。その生徒のうち数%の流れが変わるだけでも大学受験の動向に大きく影響します。それは、受験全体に及び、皆さんにも決して関係ない話ではありません。人口の最も多い、巨大なエリアに対する変更なので、その影響はいたるところに現れるはず。今回の規制が厳しく実行されたら、数年後に行われる大学入試センター試験廃止よりもはるかに大きな影響が出るはず。です。

③ 対処法は？

「大学入試へ向けての状況が厳しくなる」、「偏差値の高い生徒のみが有利になる」これは受験システムが変わるたびに言われることです。今回も状況が変わるということに変わりありません。ですから、皆さんはこれまでの受験生以上に準備をするしかない、という話なのです。変化に対応できる者が強いのは何も受験の中だけの話ではありません。世の中全般にその傾向が強いのです。「備えあれば憂いなし」受験という勝負はライバルがたくさんいて最後は自分自身との、自分自身の弱い部分との勝負になります。が、そういったぎりぎりの勝負になる前に、目の前にある課題を一つずつ消化しながら、しっかり取り組みながら、受験に向けて備えてほしいと思います。文理学院を使ってください。皆さんの要望に応えます。

今回の文理だよりは、予定を変更しました。講師紹介は来月、大月校舎校舎長 青木先生でお送りします。

■ブログには各校舎の情報満載！スケジュール、講師のつぶやき、自分勝手なメッセージ...

校舎ブログをホームページから、チェックしてください！

■第一志望合格のために、スタッフ一同全力で生徒を応援します。悩みは一人で抱え込もうとせず、いつでも、何でも相談してください(生徒の皆さんも、保護者様も)。

2年生秋季講座開講(10月から)

無料体験授業受付中。ぜひお友達を紹介してください！

編集後記

ずっと気になっていた「中2病」という言葉を調べたら…。洋楽を聞き始めたり、うまいとも思わないコーヒーを飲み始めたりと、とにかく背伸びをしてしまう、という行動パターンの説明に大笑いしてしまいました。自分にも思い当たる節もあり、恥ずかしい記憶もよみがえり…。しかし、それに続き「自分はやればできると思っている」というものがあり、ハツとさせられました。

今回のテーマは「行動に移そう」でした。行動できる人間になろう。「言うは易く行うは難し。」時代が変わっても変わらない言葉だなあ、そしてそれに気が付くのも遅いか早いかの違いはあれ、皆同じなんだよな。ならば早く気付いた方がいい。大人は後悔しているから、子どもに早く気付かせよう。というお話です。【い】